

第3節 種苗の配布など

大正時代には米麦種子,種卵,果樹苗木,蔬菜苗,ベダリアテントウムシの配布事業が実施されているが,その主要なものは米麦種子と種卵であった。

1. 米麦種子

水稻についてはこれまで本県農事試験場内で原種を栽培し,配布していたが,大正2年に委託原種田規定を設け,御所村(現土成町)2か所,生比奈村(現勝浦町)3か所,佐那河内村4か所で総面積1町5反歩の委託原種田を設置し,当场で育成した原々種をもって栽培して配布事業を行った。当時の品種は権八,雄町,改良神力,神力であった。

その後大正6年には佐那河内村のみで1町歩の委託原種圃を確保し,大正9年には,名東郡加茂名町東名東中分(現徳島市名東町)に移して同面積で栽培し,当场の直営としている。その後大正15年には原種圃を再び場内に戻して栽培を行った。

麦は場内で栽培し,大正元年には8反歩の原種圃,大正2年には6反歩であったが,大正6年には5反歩になり,以後同面積の原種圃を設けているが,大正11年には5反歩拡張し,以後1町歩の原種圃を栽培した。また大正10年3月には県告示第103号の徳島県立農事試験場米麦原種配付規則の改正により,大正10年度からは当試験場原種圃生産の米麦原種が直接町村,町村農会,農事改良実行組合,その他共同採種組合等にも無償で配付されることになった。

2. 種 卵

大正元年には,家鶏20羽を飼育し種卵の配布事業を行った。大正2年度には26羽が飼育され,以後羽数は記述されていないため不明であるが,大正時代は継続して種卵の配付が行われた。

3. 果樹・蔬菜苗

果樹についてはカキ苗,カキの台木の配布を実施しており,大正元年にはカキ苗圃9畝,大正2年には5畝が設置されている。またカキ以外の果樹苗木の配布実績があるが,種類は不明であり,大正14年以降は配布実績が不明である。蔬菜苗については,大正2年に5,000本が配布され,他の年は不明である。

4. ベダリアテントウムシ

大正14年にはカンキツのカイガラムシ防除のため,天敵としてベダリアテントウムシの飼育をすることになり,飼育室建築設備予算として2,701円が認められ,大正15年から放飼が行われた。大正15年度に放飼した虫数は勝浦郡下500頭を筆頭に那賀,海部,板野,名東各郡下150~300頭,合計1,350頭であった。

5. その他

大正2年県告示第115号,徳島県立農事試験場依頼分析規定により一般の依頼に応じ大正2年から15年の間に酸性土壌分析,肥料定性・定量分析,灌がい用水定量分析等1,708件を実施した。